

学術3 / J A E D前文本
文

日本高等教育開発協会
(J A E D、川島啓二会長)
は、九月十四・十五日、京
都市の京都産業大学むすび
わざ館において、第三回高
等教育開発フォーラムを開
催した。二日目、新たに創
設された「J A E Dグッ
ド・ティーチング賞」の授
賞式があり、受賞者の一人、
女子栄養大学短期大学部の
渋谷まさと教授が受賞記念
講演を行った。

同協会は、全国のフアカ
ルティイデイベロツパーによ
って組織され、会場校が抱
える課題に沿ってプログラ
ムも組まれる。

開会式ののち、セッションでは、協会会員が四つのテーマについて、ワークショップとレクチャーを行った。①授業アンケートの見直しと効果的活用方法
(佐藤浩章愛媛大学准教授、井上史子帝京大学准教授)、
②授業の小道具を活用したFDの可能性(中井俊樹名古屋大学准教授、城間祥子上越教育大学講師)、③主体的な学習を促すカリキュラムをどのようにデザインするか(山田剛史愛媛大学准教授、吉田香奈広島大学准教授)、学生の声を大学教育改革にどのように活用したらよいか(土持ゲリー法一帝京大学教授、榊原暢久芝浦工業大学教授)。

続いて、トピックごとに
分かれて気軽に話し合うテ
ィー・タイム交流会が行わ
れたのち、全体シンポジウ
ムが開かれ、大学教員の能
力開発に関わる二つの報告
があった。「総合的な大学教
員の能力開発・愛媛大学に
おけるテニユア・トラック
制度と100時間研修の試み」

(佐藤浩章愛媛大学准教
授)、「北欧諸国における大
学教員の教授能力証明」(加
藤かおり新潟大学准教授)
による情報提供があった。

佐藤淳教授は、二〇一三年
度より同大学で行っている
新規採用の若手教員等に一
定期間にわたり体系的なプ
ログラムのもとで大学教員
として必要とされる業務全
般に関する能力開発と財政
的支援などについて、その
背景や内容、実施体制、課
題について述べた。加藤准
教授は、北欧諸国では、大
学が教員に一定の教授能力
証明を採用要件として求め
るとともに、能力証明のた
めの教育プログラム提供を
能力開発支援の一環として
行う等の取組が進んでいる
こと等を紹介した。

二日目の全体レクチャー
では、教育学術新聞との共
同企画でもある「教授方が
大学を変える」において選
定された三事例(女子栄養
大学、金城学院大学、沖縄
国際大学)に対して、「グッ
ド・ティーチング賞」が贈
られ、そのうちの一人、女
子栄養大学の渋谷教授によ
る受賞者講演が行われた。
渋谷教授は、生理学の授業
において、図解によって教

えることを心がけ、その図解こそが学生とのコミュニケーションツールとなっていると述べた。学生同士の学び合いにおいても、図解を通して行われ、予習や復習もオンラインで図解が用いられる。また、分かりづらい箇所も図解のどの部分かを学生に指摘してもらうという。

ランチタイムもビュッフェ形式で、参加者間の交流が行われた。

一日に引き続き、セッションⅡでは、三つのテーマについて、ワークショップとレクチャーが行われた。

①データに基づく組織的な教育改善をどのように行うかー教学IR入門（中井准教授、山田准教授）、②新任教員研修で使えるケーススタディ教材を開発する（ホートン広瀬恵美子芝浦工業大学准教授）、③大学院におけるFD入門（近田政博名古屋大学准教授）。

最後に、次回開催校が新潟医療科学大学とすることなどが決まり、終了した。